

Step1

この年代の こどもとサッカー

サッカーは世界中の人が大好きな、人気ナンバー1スポーツ。

世界中の人がワールドカップに熱狂します。サッカーには胸を熱くする不思議な力があります。それはプレーヤーはもちろん見ている人も夢中にさせます。

数々の魅力的なプレー。息詰まる緊張感。そして意外な結末。

まだ小学校に上がる前の小さなこどもたちでさえその興奮を感じることができます。



サッカーの楽しさを 知ってほしい！！

このハンドブックは、6歳以下のこどもたちのために作りました。この年代のこどもたちに、外で思い切りからだを動かしてもらうために作りました。

これからサッカーの早期教育を提案しようというのでは決してありません。サッカー選手を育てることが目標ではなく、元気でたくましいこどもを育てることが目標です。元気なこどもたちをいっぱいふやして、サッカーのすそ野、日本のすそ野を大きく広げることが私たちの願いです。この時期はこども自身が夢中になれるような「遊び」であることが大前提。「好き！」「楽しい！」「もっとやりたい！」こんな気持ちが何より大事。ワールドカップを経験した今だからこそ、**サッカー、スポーツとの良い出会いのチャンス**をつくってあげてください。

この年代のこどもとサッカー

現代のこども事情

時代の流れの中でこどもたちを取り巻く環境も随分変わってきました。

外遊びの減少 集団遊びの減少

昔 鬼ごっこ、木登り等の外遊びが中心。グループ(年齢、性別の違った仲間)遊びの中で喜び、熱中、成功、失敗が原動力となって、からだ、精神、創造性、判断力、社会性が育てられました。大人の出る幕はありませんでした。

今 テレビ、ビデオ、コンピュータゲーム等の室内でかつ少人数(同性、同年齢)での遊びが台頭。リセットして何度も繰り返すことのできるゲームには悔しさや痛みを感じる場面がありません。時間や内容も大人がコントロールしなければなりません。



社会に足りないものを
スポーツは持っている



他人への無関心 教育力の低下

昔 社会的意識が高く、年代を超えた交流やつながりがありました。学校の先生も責任を持って、こどもに厳しく規律やモラルを指導する環境がありました。

今 (諸事情がありますが) 注意したり、叱ったりする人が特別視され、他人のこどもに無関心な大人が増えてきました。規律やモラルを指導する場が減り、学校の先生も厳しく接することが難しくなってきました。

家庭環境の変化 しつけの低下

昔 弟兄も多く、縦の組織がはっきりした大家族でした。全員での食事の機会を通じて、家庭内でも日常的に競争や協調が必要とされていました。また親の責任やこどものに対する要求も多く求められていました。

今 少子化によって、兄弟が少なく、個室が与えられる等、家族の間での刺激が少なくなりました。一人のこどものに対する親の期待が大きかったり、自分の基準でこどもに接するため過保護になったり、逆に放任になってしまふケースも出てきました。